

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、東京都小金井市にある江戸東京たてもの園です。

特別展「昭和 100 年と江戸東京たてもの園」

URL : <https://www.tatemonoen.jp/>

江戸東京たてもの園では、昭和 100 年を記念して、園内の展示室において令和 8 年 3 月 20 日から 6 月 21 日までの間、特別展「昭和 100 年と江戸東京たてもの園」が開催されました。

江戸東京たてもの園は、江戸時代から昭和中期までの文化的価値の高い歴史的建造物を移築・復元・保存・展示する、東京都江戸東京博物館（墨田区）の分館として平成 5 年（1993 年）に開設されました。東京の歴史においては、これまで火災や震災、戦災などにより、多くの貴重な建築物が失われてきていますが、同園は、こうした貴重な建築物を次代に継承することを目指しています。都内の緑豊かな都立小金井公園の一角を占め、現在では多くの市民や観光客に親しまれる憩いの場となっています。

ビジターセンターは、昭和 15 年（1940 年）に紀元二千六百年記念式典の式殿として宮城外苑（現・皇居前広場）に造営され、式典終了後の昭和 17 年（1942 年）11 月に当地へ移築された歴史を持ちます。時代や社会の要請に合わせて「式殿」から「光華殿」、そして現在の「ビジターセンター」へと改称されていきました。そしてその周辺にかつて設置された「国民錬成所」「東宮御仮寓所^{とうぐうごかくう}」「武蔵野郷土館」といった施設は、まさに昭和の時代ならではの背景と独特な役割を背負ってきました。今回の特別展では、これらの施設や役割の変遷を手掛かりに、小金井公園一帯が歩んだ激動の昭和を振り返る重厚な展示が組まれていました。



◆江戸東京たてもの園

次に、特別展の内容についてです。

展示は、以下の4章立てで構成されていました。

第1章「紀元二千六百年記念事業—東京緑地計画と光華殿—」では、神武天皇即位2600年を祝う国家的祝賀ムードのなかで立案された東京緑地計画と、その一環として誕生した小金井大緑地の歩みが紹介されていました。また、時代が戦争へと突き進むなか、地域の指導者育成の必要性から当時の文部省が設置した国民錬成所（のちの教学錬成所）の役割や、移築されて「光華殿」と命名された式殿が皇国臣民の錬成・修養の場として機能した戦時下の諸相が、当時の教科書『國體の本義』や『臣民の道』、棟札などの資料と共に伝えられていました。

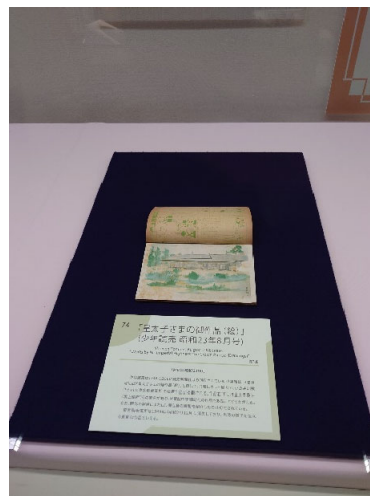
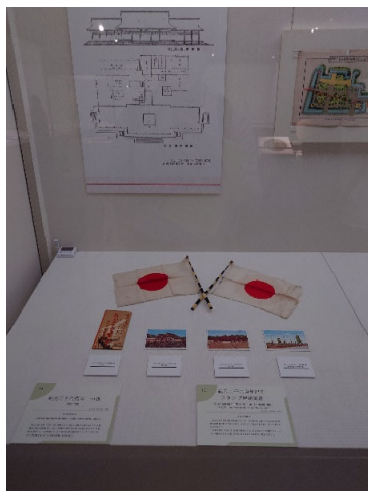
第2章「戦後—東宮小金井御仮寓所と学習院—」では、終戦後の復興期について紹介されていました。昭和20年（1945年）4月の空襲により目白キャンパスを焼失した学習院中等科が、教学錬成所跡地を校舎や学生寮として転用して再開した経緯が描かれていました。さらに、都心での教育が困難であるとの当時の宮内省などの判断から、皇太子殿下（現・上皇陛下）の学舎として葉山から^{ぐふいん}供奉院宿舎を移築し、「東宮小金井御仮寓所」が整備された歴史に触れ、皇太子殿下がこの地で勉学に励まれた戦後初期の確かな記憶が紹介されていました。

第3章「高度経済成長—小金井公園と武蔵野郷土館—」では、昭和29年（1954年）1月の都立小金井公園としての正式な開園と、同時に開設された「武蔵野郷土館」に焦点が当てられていました。社会が戦後復興から高度経済成長へと劇的に変化するなか、同館が鈴木遺跡や下布田遺跡などの重要な発掘調査を主導し、考古学・歴史研究の重要な基地として大きな足跡を残したことが、縄文時代の丸木舟や中世の常滑甕といった貴重な出土品と共に解説されていました。

第4章「平成から令和へ—江戸東京たてもの園—」では、都市の変貌や社会経済の変動によって失われゆく歴史的建造物を次代へ継承すべく、平成5年（1993年）に「江戸東京たてもの園」へと生まれ変わった平成・令和の歩みが整理され、30年余に及ぶ文化財保存活用の軌跡が紹介されていました。



◆江戸東京たてもの園



職員の方にもお話をお伺いしました。

今回の「昭和 100 年」という大きな節目を機に、来園される方々には、時代ごとの背景やそれに応じて施設が果たした役割の変遷にじっくりと想いを馳せていただきたい、また、歴史とは単に過去の事実を暗記するだけのものではなく、当時の人々の選択や時代の要請について自ら考えていくものであるということを、今回の特別展を機に少しでも感じていただければ、という熱い思いを語っていただきました。

江戸東京たてもの園は、今回の特別展以外にも、園内全体で様々な時代における歴史の息遣いを感じられるのが大きな魅力です。昭和の空気感を今に伝える建物としては、昭和 11 年（1936 年）の 2・26 事件の現場となった 2 階が残る「高橋是清邸」をはじめ、小さな銅板片を巧妙に組み合わせた正面外観が特徴的な「丸二商店（荒物屋）」や、昭和初期の贅を尽くした宮造り建築の美しさを誇る「子宝湯」など、当時の人々の暮らしや下町の情景が鮮やかに再現されています。また、日本の近代建築の発展に多大な貢献を果たした建築家・前川國男氏が、戦

◆江戸東京たてもの園

時体制下の資材不足の折に建てた「前川國男邸」なども復元されており、その洗練された木造モダニズムの意匠を学ぼうと、多くの建築関係者や建築を学ぶ学生さんたちが熱心に足を運んでいるとのこと。

特別展はこのレポートを書いている時点では終了していますが、小金井市や中央線沿線にお越しの際には、是非江戸東京たてもの園へ足を延ばしてみてもはいかがでしょうか。



会期：令和8年3月20日（金）から6月21日（日）

主催：東京都、江戸東京たてもの園（公益財団法人東京都歴史文化財団）

住所：東京都小金井市桜町 3-7-1